

住宅用火災警報器（住警器）の流山市内の奏功事例を紹介します。まだ設置のされていない住宅は早期に設置をしましょう。

1 平成19年9月の11時頃

美原2丁目の木造2階建て専用住宅において、30代女性がガスコンロに鍋を掛けて火をつけたまま外出し、その後通りかかりの主婦が家の中から**警報器の鳴る音**に気が付き、消防署に通報し駆け付けた消防隊が屋内進入したところ、1階の台所でガスコンロに火が付いたままの鍋から煙が立ち上がっていました。幸いに鍋の中身を焦がしただけで火災には至りませんでした。

2 平成20年11月の4時頃

駒木台の木造2階建て専用住宅において、30代男性が2階寝室で就寝中に**住警器の鳴る音**に気付く、煙が充満していたので1階に降りたところ、玄関室に置いてあった観賞用の水槽に使用していた電気配線から出火し警報器が作動したもので、早期に家人が気付いたことにより水道水で消火し、**ぼや火災で消し止め大事に至りませんでした。**

3 平成22年1月の12時頃

江戸川台東2丁目の木造2階建て専用住宅において、60歳女性が2階から**住警器の鳴る音**が聞こえ見に行ったところ、本棚の裏にあるコンセントから出火したトラッキング火災でしたが消火器により消し止め**ぼや火災で済みました。**

4 平成22年1月の4時頃

西深井の専用住宅において、80代女性がガスコンロでお粥を温めていたが、ガスコンロを消し忘れて近所の知人宅へ出掛けてしまい、その後、帰宅したところ**住警器の鳴る音**がしたのですぐに台所へ行き、ガスコンロの火を消し、鍋の中のお粥を焦がしただけで火災には至りませんでした。

5 平成22年5月の14時頃

平方の軽量鉄骨造2階建て専用住宅において、70代男性が食用油を固めて処分しようとしてガスコンロに鍋を掛けて火を付けたままその場を離れ、しばらくして**住警器の鳴る音**が聞こえ、台所に行ったところ、鍋が燃えていたため粉末消火器により消火した。早く出火に気がつき初期消火を行ったため、**ぼや火災で消し止め大事に至りませんでした。**

6 平成22年11月の3時頃

青田の木造2階建て専用住宅において、60代男性が就寝中住警器の鳴る音で目が覚め、1階に降りたところ台所が煙で充満していた。暖を取るため食卓の椅子の上で使用していた電気ミニマットから発火し、自然に消え**部分焼で済み大事に至りませんでした**が、もしこのまま火災になった場合でも住警器の警報音により目が覚め、早期発見し初期消火並びに避難することが出来たと思われま